

School Of



KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

関西学院大学 法学部 2025



Law And Politics

法学の、その先へ

私たちが目指すのは、法学・政治学の専門家を養成することだけではありません。

「ソーシャル・アプローチ」の教育理念に基づき、高い専門性を身につけるとともに、

社会への深いまなざしと弱者への慈しみを持つ、広く人々のために貢献できる人物を育てることで。

その将来は、法曹はもちろん、公務員、民間企業、マスコミ、教育、非営利団体、

さらには国境を超えて、多様に広がっています。

CONTENTS

- P.03-04 学びの特色
- P.05-07 将来を選択する力を育む5つのコース
(特修コース／司法・ビジネスコース／公共政策コース／
グローバル法政コース／法政社会歴史コース)
- P.08 教員・ゼミ紹介
- P.09-10 先輩たちの学びのSTEP
- P.11-12 国際交流プログラム
- P.13-14 就職実績

Q.

ながらスマホの
自転車にひかれたら、
損害賠償を請求できる？

この答えは P.05へGO

Q.

事業(ビジネス)を
するなら会社を作った方が
税金は安くなる？

この答えは P.06へGO

Q.

日本の公務員数は
多すぎる？

この答えは P.06へGO

Q.

富士山は
国際的に見て
「文化」なの？

この答えは P.07へGO

Q.

板垣退助の名言
「板垣死すとも
自由は死せず」
本当に言ったの？

この答えは P.07へGO

法学部教育理念「ソーシャル・アプローチ」とは

関西学院の初代法文学部長を務めたH.F.ウッズウォースの言葉で「民間における自由の精神」、「広く深い社会的視野と教養」、「社会貢献(奉仕)の精神」の3つを示しており、法学部では“Mastery for Service”のスクールモットーとともに、この理念を大切に教育・研究を進めています。

SOCIAL APPROACH

法律学科

法知識を手に、
現代社会が抱える課題を解決に導く

身近な事件や裁判などを題材に法について学びます。人文科学、政治学、経済学などの多角的視野からそれぞれの法が生まれた背景や理由、現在の問題点などについても考察します。広く深い社会的視野と教養に根ざした法学の教育・研究を通して、リーガルマインドと論理的な思考法を身につけ、現代社会が抱えるさまざまな課題解決に貢献できる力を養います。

政治学科

政治を知り、
より良き社会の未来を探究する

グローバル化が急速に進展する現代。国際社会や国内で起こる諸問題を政治の視点から学び、未来のために何をすべきかを探究します。社会と密着した学びを通して、今、起きていることを的確に理解し、解決に導く方法を考え、実行する力を習得。広く深い社会的視野と教養を持ち、柔軟な感性と人間性によって集団をより良い方向へと導く、リーダー的資質を養います。

学びの特色

基礎をしっかりと学び、それぞれの志望から専門領域の選択へ

1年 基礎知識を学び、 広い視野を養う

法学・政治学の学び方を身につけるとともに、法律・政治の基礎や教養を幅広く学び、自分の興味・関心のある分野を見つけます。

2年 それぞれの 専門領域を開拓する

2年の秋学期に、自身の希望に合わせてコースを選択（特修コースは1年の秋学期）。それぞれの分野で専門性を高めていきます。

3年 専門性に 磨きをかける

1・2年生で学んできたことをもとに、より高度な専門領域を探究します。希望者は研究演習（ゼミ）に所属し、自らの研究テーマに沿って学びを深めることも可能です。

4年 社会で通用 する力を養う

学びの集大成としての1年。自身の進路も踏まえて、専門性の高度化を図りながら社会で通用する実践力を磨きます。

就 職

一般企業

公務員

法律職

NGO・NPO
など

大学院

法学研究科

司法研究科
（ロースクール）

専門知識とそれを生かす力を手に、社会で広く活躍

演習科目

1年生から少人数制の演習がスタート

■スタディスキル演習

先輩学生が「ラーニング・アシスタント」として授業に参加。1年生の学びをサポートします。

■基本演習

身につけたスタディスキルを活用し、法学・政治学的思考力の土台を築きます。

■専門導入演習

■模擬裁判演習

■人文演習

学びの興味・関心に応じて選択できる多様な演習科目を開講。1年生で身につけた基礎的専門性をさらに発展させ、法学、政治学、言語学、映像など幅広いトピックから担当教員の専門性を生かした演習授業が展開されます。

■研究演習

■コース実践演習

社会で活躍するための知識とスキルを磨く演習授業を展開。1・2年生で培った専門性を実社会で生じる課題と結びつけて探究します。専門的分析に加え、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、思考力・判断力・解決力を磨きます。

興味・関心に応じて選べる学科横断型の5つのコース

1年秋学期
に出願

2年春学期
に開始

■特修コース

早期卒業し、大学院への進学も可能

専門科目

さまざまなことに挑戦でき、それをサポートしてくれる人がたくさんいます！

学びたい意欲があれば、幅広くも深くも学ぶことができるのが魅力です！

2年秋学期
に選択

■司法・ビジネスコース

■公共政策コース

■グローバル法政コース

■法政社会歴史コース

学びのコンセプトを定める指針 「履修モデル」

法学部では、多様なニーズに応えるべく多様な授業が用意されています。数多くある授業の中からどれを選択すれば目標に近づけるのか？身につけたい力、学びたい分野、深めたい知識に応じて、体系的で効果的な学びをサポートしてくれるのが履修モデルです。1年生から履修モデルを意識して取り組むことで、コース所属後の学びにスムーズに移行することができます。履修モデルを参考に、あなたを成長へと導く学びをアレンジしましょう。

履修モデル例：グローバル法政コース 国際協力と平和構築を学ぶ（両学科向け）

	専門導入・専門基幹・演習科目・選択専門科目	グローバル法政コース科目
1年	現代の人権 国際社会と法 地域政策入門A 政治学入門B 日本国憲法 憲法A（基本的人権総論） 民法入門 政治史B 基本演習	
2年	憲法B（基本的人権各論） 政治学原論A 比較政治 行政学A 国際政治論A 専門導入演習 ジェンダーと法	憲法C（統治機構論） 債権総論 国際法総論A 西洋法史B 文化共生論 行政学B NPO／NGOと市民社会 国際機構論 外交史A 国際経済政策
3年以上	法学研究演習Ⅰ または政治学研究演習Ⅰ または法政文化研究演習Ⅰ	国際法総論B 国際法各論B 国際人権法 EU法 中国法A 東洋法史A 外交政策論 国際政治論B 東アジアの政治 国際協力論 中東・アフリカ地域の政治 グローバル法政実践演習B

※上記以外に【基礎科目群】として「グローバルスタディーズ科目」の修得を推奨

PICK UP

スタディスキル演習

法学・政治学を学ぶために必要なスキルを身につける

法学部では、1年から4年まで少人数制の演習を数多く取り入れています。1年生全員が履修する「スタディスキル演習」では、全クラス共通のカリキュラムのもと、演習形式で法学・政治学を学ぶために必要な「読む」「聞く」「書く」「話す」力を身につけます。その集大成となるのが中央講堂に約700名が集まって行われる「スピーチコンテスト」。各クラスの代表14名が「法学部でどのように学んでいくのか」というテーマに沿って聴衆の前でスピーチを行い、グランプリを競います。



PICK UP

コース実践演習

法学・政治学の学修成果を実社会で発揮する

コース別に開講される「コース実践演習」は、特色あるコースの専門分野に関連する実務家（弁護士、社会保険労務士、公務員、ジャーナリストなど）が授業を担当します。これまで培ってきた法学・政治学の知識を、実社会でどのように活用できるのかを少人数での演習形式で学修します。

授業例：司法・ビジネス実践演習

「働き方改革」をテーマに「賃金」「労働時間」といった労働条件について、就職後に直面する場面を想定しながら考察を深めます。企業活動（経営・労働）に関する知識を習得し、理解を深めることで、自立した職業人となるための素養を身につけます。授業は、企業の人事労務管理の専門家である社会保険労務士が担当。

将来を選択する力を育む5つのコース

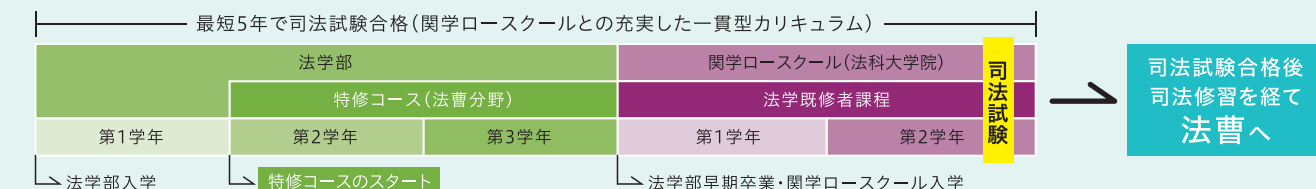
特修コース 1年秋学期に出願 (選抜制 3分野一括募集:定員50名)

法曹・企業法務・公務の各分野における スペシャリストを目指す

■法曹分野 ～法曹養成連携プログラム～

関学ロースクールとの連携により設計された“法曹養成連携プログラム”は、法学部入学から最短5年での司法試験合格を目標とする文部科学省認定の法曹コースカリキュラムです。高度な法律知識の習得に加え、現役弁護士などからのきめ細かな実践的指導により、法曹としての働くうえで必要不可欠な価値観や判断力を養い、市民に寄り添う心豊かな法曹を目指します。

【期待される進路先】裁判官、検察官、弁護士



■企業法務分野

企業経営、取引・契約、知的財産管理など、多方面で企業を支える法務のスペシャリストを目指します。ビジネスパーソンにとって必要不可欠となる正確な法律知識を養うとともに、企業の法務部担当者による演習型授業でケーススタディから企業法務の現場を学び、実践的な対応力を身につけます。

【期待される進路先】
民間企業(製造・情報通信・金融・保険・サービス業等)

■公務分野

より良い社会の実現に向けて主体的に行動する公務のプロフェッショナルを目指します。社会を形成する法律・政治・経済の専門知識を獲得し、現代社会の課題を的確に分析する力を磨きます。国家公務員によるアクティブラーニングにより、課題解決に向けた政策を立案・実行する力を養います。

【期待される進路先】
国家公務員、地方上級公務員

PICK UP授業



法曹入門

現役弁護士が授業を担当。事例の分析を通して法曹の職務を理解することに加え、日々変化し複雑化する社会において求められる役割・使命を考えながら、法曹に必要な資質を養います。

一人ひとりの興味・関心、身につけたい力に合わせて選択できる5つのコースを設置しています。
各コースの特色を生かしたカリキュラムが用意されており、それぞれの専門領域を広く深く学ぶことができます。

司法・ビジネスコース 2年秋学期に選択 (法律学科のみ)

社会のさまざまな課題を解決に導く 専門的で幅広い法律知識を身につける

旅行先で事故に遭ったら? 重大な取引の契約書作成を任せたら? 身近な事例を参考に幅広い法律分野を体系的に学習します。日常生活でのトラブルからビジネス現場で生じる課題まで、社会の共通ルールである法律を学ぶことで対処できる問題はたくさんあります。法律知識は自分自身を守り、他者を救うツールです。法的根拠に基づき、論理的にアプローチをする思考力と判断力を培い、社会で生じるさまざまな課題を解決に導く力を身につけます。

《履修モデル》

- 市民生活の法律学修モデル ●法律実務学修モデル
- ビジネス社会の法律学修モデル ●国際ビジネス法務学修モデル

Q. 事業(ビジネス)をするなら会社を作った方が税金は安くなる?

A. 安くなるケースが多いですが、一概には言えません。

個人の所得税率は最高で45%ですが、法人税率は一律23.2%(中小企業なら15%の場合も)なので、会社を作ると節税につながりやすいです。ただ、赤字や配当金が生じるときなどは慎重な検討が必要です。海外の会社を利用する節税策もありますが、法令を遵守しつつ価値創造を図るには、企業を取り巻く法律の体系的な学びが欠かせません。(解説:一高 龍司先生)



PICK UP授業



消費者と法

日常生活において当たり前に行われる物の売買は、法律で定められる契約に基づいて交わされます。実社会では、情報不足のために消費者が不利益を被るトラブルが多く生じています。この授業では、実際に起こった消費者問題・悪徳商法の仕組みや背景を解説し、法的根拠に基づき消費者としてどう対応すべきかを学びます。

公共政策コース 2年秋学期に選択 (経済学部連携)

「法律・政治・経済」3軸の学修を通して 公共的課題に対応できる資質を養う

皆さんにとっての住みやすいまちとはどんなところでしょう? そのまちで暮らす未来の私たちは、どのような生活をしているでしょう? 社会を形成する法律・政治・経済を深く知ること、社会が抱える課題が見えてきます。急速な社会変化に伴って生じる公共的課題の数々環境保護、空き家問題、待機児童、災害対策・復興、地域再生—それらの課題解決に必要な専門性と多面的な分析力、課題解決の実行力を身につけ、豊かな社会を築く担い手を目指します。

《履修モデル》

- 政策法務を学びたい学生向けの履修モデル ●公共政策を学びたい学生向けの履修モデル
- 地域政策を学びたい学生向けの履修モデル ●地域ガバナンスを学びたい学生向けの履修モデル

Q. 日本の公務員数は多すぎる?

A. 比較政治学の観点からは、先進国の中で日本の公務員数は少ないと言えます。

たとえば、アメリカでは公文書管理のために多くの公務員が働いていますが、日本では疎かになっています。また、新型コロナウイルス感染拡大のような危機的状況下では、保健所の職員をはじめ公務員が少ないことが大問題となっています。どうしてこのようになってしまったのか、どうして日本人は公務員が多すぎているのか、実感だけに頼らず一緒にきちんと調べてみましょう。(解説:北山 俊哉先生)



PICK UP授業



国内フィールドワーク演習(公共政策)

理論から実践へ、地域が抱える課題解決に取り組む実践型授業です。地域の特性について事前学習を行った上で、実際に現地に足を運んでの調査、自治体や企業・地元住民との交流を通じて、実情を理解します。そして地域社会との協力により、課題解決に向けた具体策の企画・立案から実行までをやり遂げます。

FOCUS

模擬裁判演習

臨場感あふれる模擬裁判を通して、刑事手続を実践的に学ぶ



架空の刑事事件を題材に、捜査段階における証拠・資料収集や書類作成に取り組み、裁判官・検察官・弁護士・証人・被告人としてロールプレイを行います。模擬法廷教室で行われる模擬裁判は、本物さながらの臨場感。一連の公判活動を体験することで、刑事手続について理解を深め、論理的な思考力、周囲との協働力、主体性などを養います。

私は検察官チームとしてこの演習に取り組みました。判決に大きな影響を与える冒頭陳述の担当でプレッシャーもありましたが、先生の助言の下、チームの仲間と協力し準備を進め、自信をもって本番に臨むことができました。裁判について理解が深められるだけでなく、1年間一緒に頑張った「仲間」というかけがえのない財産が得られました。

法律学科3年 山本 優季さん



グローバル法政コース

2年秋学期に選択

国際協力を基盤とした社会の実現へ 世界を舞台に活躍する力をつける

気候変動、貧困格差、紛争、教育、衛生、ジェンダー……。世界が抱える課題に対して、国際社会が協力して取り組もうと掲げられた「持続可能な開発目標（SDGs）」を実現する社会の姿を考えます。言語・文化・風習・思想、国によって異なるさまざまな価値観の理解を土台に、国際社会における法と政治の役割を深く学びます。多角的な視野を生かした判断力、異なる意見や対立する考えを解決に導く調整力を身に付け、グローバルに活躍できる資質を養います。

- 《履修モデル》
- グローバル社会の法を学ぶモデル
 - グローバル社会の政治を学ぶモデル
 - 国際協力と平和構築を学ぶモデル
 - グローバル社会のガバナンスを学ぶモデル

Q. 富士山は国際的に見て「文化」なの？

A. 富士山は2013年に文化遺産として世界遺産リストに登録されました。
ユネスコの世界遺産には自然遺産と文化遺産がありますが、富士山とその周辺地域は文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」として認められました。富士山は昔から信仰の対象であり、また「富嶽三十六景」や万葉集の和歌にも詠まれるなど芸術の源であり、こうした側面が自然以上の普遍的な文化的価値をもつと評価されたのです。（解説：望月 康恵先生）



法政社会歴史コース

2年秋学期に選択

故きを温ねて新しきを知る より良い社会のあり方を見出す

私たちの社会に当前に存在する法律と政治。なくてはならない社会のルールはどのように形成されたのでしょうか？各時代の社会・思想・文化を反映して日々移り変わってきた法律と政治について、過去の失敗や成功、先人の経験と知恵を学び分析することで、「今」に必要な考えが見えてきます。社会的課題の本質を捉える洞察力、過去の経緯と現状の分析を根拠に新たな考えを見出す発想力を養い、未来の社会を創造する資質を身につけます。

- 《履修モデル》
- 現代法の成り立ち学修モデル
 - 政治システム学修モデル
 - 法と政治の教養学修モデルI
 - 法と政治の教養学修モデルII

Q. 板垣退助の名言「板垣死すとも自由は死せず」本当に言ったの？

A. 概ね事実です。正確には「われ死すとも自由は死せん」と言ったそうです。
板垣退助は明治の政党・自由党の総理として各地を遊説し、盛んに政府批判を展開していた中、1882年4月6日に岐阜で反対派に襲われます。上記の「名言」は、その時に生まれたもの。あまりにですぎた話なので疑問視されてきましたが、自由党に批判的な立場だった警察の密偵の報告書に上記の言葉が記録されていたことで、その存在がほぼ確定しました。（解説：高島 千代先生）



PICK UP授業



国際協力論

真の国際協力の姿とはどのようなもののでしょうか？国際協力におけるルール「法」の役割を理解し、国際社会・国際機構・国家が担う国際協力のあり方を考えます。日々生じる国際紛争に対し、武力ではなく「法」を通じての解決方法を検討することで、国際平和を構築・維持するために何が必要かを見出すとともに、私たちの生活と国際協力とのつながりを考えます。

PICK UP授業



政治学原論B

皆さんが選挙を通して選んだ政治家・政党は、皆さんの意見や考えをどれほど代弁してくれているのでしょうか？現代政治は、有権者により選出された「代理人」である政治家・政党が、政策の方向性を決定する代議員制のもとで作動しています。そのために生じてしまう有権者と政治家・政党との間の「政策選好のギャップ」を埋めるために何が必要かを考えます。

教員・ゼミ紹介



法律学科

人生に必ずついて回る法律問題

山口 亮子先生 [家族法／親族法／相続法]

人に関する法律である民法には、お金を介する人と人との関係である財産法と、家族の中の人と人との関係である家族法があります。家族法には、婚姻、離婚、親子、扶養といった親族法と、家族の誰かが亡くなったときに生じる相続、遺産分割、遺言といった相続法が規定されています。家族は愛情や血縁だけで成り立っているのではなく、法律関係を形成する社会の最小の人間関係であり、法的トラブルも存在します。民法は、社会や人生において重要な役割を果たす法律です。家族の法律問題は身近にあります。法学部で民法を体系的に学んでいきましょう。

ゼミでの学び

ゼミでは、グループで調べた社会的テーマや判例について、何が問題であるのかをわかりやすく自分の言葉で説明し、論点を整理し、その問題点について皆をコーディネートして議論する力を養います。まずはディベートにより議論の練習を行い、他大学との討論会や合宿などを通して、プレゼンテーション能力を開発していきます。



政治学科

有権者の政治心理・行動を科学的に分析する

善教 将大先生 [政治意識／政治信頼／政治行動]

政治（科）学は、私たちが日々見聞きする政治現象が、どのようなメカニズムで、なぜ生じているのかという問いに答える学問です。政治現象はわかりにくく、それゆえにしばしば「関わりたくない」「遠い」とみなされます。そのため政治学では、歴史的資料を用いたり数量的なデータを用いたりしながら、政治現象を理解するための道具（理論）について、日々、研究が進められています。政治学を学ぶことで、私たちは政治についてこれまで以上に理解できるようになりますし、なにより、新たな視座や観点から政治を分析し捉え直すことができるようになると思っています。

ゼミでの学び

私のゼミの最終目標は、自身で問いを立て、その問いにデータに基づき答える卒業論文を執筆することです。しかし、相応の「基礎体力」がなければ、卒業論文を執筆することはできません。そのため、まず行動論政治学や計量分析の基礎的素養を身につけてもらい、その後、各自の関心に応じた研究を進めていきます。



外国語・他

映像文化の政治学を学ぶ！

塚田 幸光先生 [映画学(映像文化)／表象文化論／アメリカ研究]

ファンタオレンジって何？メディアが伝えるそのイメージは、明るく爽やかです。しかしながら、そのドリンクが、アメリカ企業コカ・コーラ社がヒトラーを讃えて生み出した商品であることは知られていません。ファンタオレンジはナチス味。学校では教えてくれないアメリカ史のダークサイドです。「表象文化論」では、映像／映画を軸に、メディアと政治、あるいは文化の政治学を学びます。9.11と3.11後の時代を生きる僕らにとって、メディアリテラシーの涵養は不可欠であり、それは混迷の時代を生き抜く武器となります。ファンタオレンジの向こう側に、文化と政治の関係を見る。大学生として必須の視点と思考を学びます。

ゼミでの学び

メディアが伝える社会問題や国際政治に対し、その意味や役割を議論します。毎回異なるテーマに対し、リサーチ、プレゼンテーション、ディベートを通じて、物事を深く考え、主体的に思考・行動できるようになることが目的です。また、フィールドワークやゼミ合宿など、座学に終わらない実践力の向上を目指します。

法律学科

安部 祥太	刑事政策／刑事訴訟法／韓国刑事法
石田 眞得	金融商品取引法／会社法／ファンド規制
伊勢田 道仁	会社役員の法的責任／内部統制／M&A
一高 龍司	租税法／国際租税法／租税会計
井上 武史	憲法／憲法裁判／結社の自由
植木 一幹	法哲学(法理学)／正義論／法営為の方法論
内山 衛次	民事執行法／民事訴訟法／執行債務者保護
大西 邦弘	不法行為法／損害／過失
岡田 博史	行政法／自治体法務／都市法／地域政策
川村 康	中国法史／法と刑罰／家族
木村 仁	英米法／信託法／英米契約法
齋藤 民徒	国際法の基礎理論／国際人権法／ソフトロー研究
笹川 敏彦	会社法／EUとフランスの会社法／組織再編
瀧 久範	民法／契約／不当利得
田中 優輝	刑法／犯罪／被害者の同意
谷川 和幸	知的財産法／著作権法／インターネット法
野田 崇	行政法／公私協働／公共の福祉
橋場 典子	法社会学／司法アクセス／社会的排除
平山 幹子	刑法／経済刑法／共犯／不作為犯／刑事政策
前田 雅子	行政法／地方自治法／社会保障行政
松田 真治	保険法／商取引法

松本 和洋	西洋法制史／イングランド法／法文献
守屋 浩光	日本法史／幕藩法／政策形成訴訟
柳井 健一	憲法／国憲法／イギリス公法
柳屋 孝安	労働者概念／企業内従業員代表制／企業組織の変動をめぐる問題
山口 敦子	国際私法／国際取引法／欧州統一特許制度
山代 忠邦	法民法／契約／性質決定
山田 直子	比較刑事法(日・英)／取調べの可視化／裁判員裁判
吉田 元子	裁判紛争解決／和解／国際民事手続法
渡邊 力	民法／財産法／債権／求償権

政治学科

小川 大和	公共政策論
上村 剛	西洋政治思想史／グローバル・ヒストリー／アメリカ革命／権力分立
北山 俊哉	地方自治／公共政策／政治経済
高島 千代	近代日本／民衆・民衆運動／生活と政治
富田 宏治	日本思想／文化接触／文化変容
早川 有紀	行政学／規制政治／公共政策
藤田 将史	国際政治論
武藤 祥	スペイン・ポルトガル政治史／権威主義体制
望月 康恵	国際機構論／国際協力／紛争の平和的解決
山田 真裕	政治参加／選挙行動／政治過程論

外国語・他

李 順進	人文・社会／外国語教育
石川 圭一	応用言語学／第二言語獲得／音声学
上田 和彦	フランス思想／プランシヨ／レヴィナス
大東 和重	日中比較文学／台湾文学／比較文化論
大宮 有博	新約聖書学／アメリカ宗教・思想／解放の神学
小笠原 亜衣	モダニズム／表象文化論／20世紀米文学
テ・ヤオストハダ	社会言語学／言語政策論／言語文化教育学
河村 克俊	啓蒙／自由／18世紀ドイツ
野上 陽子	第二言語話者のアイデンティティ／語用論
野村 潤	第二言語の音声／第一言語の文法・談話
C.M.ヘアマンゼン	信仰／社会／貧困
森本 郁代	コミュニケーション論／会話分析／日本語教育

(2024年5月現在)

先輩たちの学びのSTEP

なぜ、法学部を選び、ここで何を学び、どのような未来に進もうとしているのか？
法学部の先輩たちの成長ストーリーをご紹介します。

学べば学ぶほど面白く、
知れば知るほど興味が湧いてきます。

法律学科

4年 和田 稜大さん

ドラマや小説の影響で法律について興味を持ち、専門的に学んでみたいと法学部を志望しました。コロナ禍の影響を受けた中での入学で、1年の春学期はほぼオンライン授業になり、周囲との交流も少なく、モチベーションを保つのに苦労しました。そこで強く思ったことは、何事も自分から積極的に動いていかないといけないこと。2年でラーニングアシスタントに参加したことをきっかけに、友人も増え、先生や事務室の方とも親しくしていただき、学びも人間関係も広がっていきました。現在は、安部先生のゼミに所属し、刑事政策と刑事訴訟法の分野についていろいろと調べているところです。その中でも、日本の取り調べの現状について興味があり、今後、本格的に研究していきたいと考えています。目指す進路としては、地方公務員です。今、住んでいる神戸市に対してすごく愛着を持っており、法知識を生かして地域の人々のために働きたいと思っています。



「ラーニングアシスタント(LA)」

先輩に誘われて参加しました。活動のハイライトは、スタディスキル演習の総仕上げとして行われるスピーチコンテストです。その運営をほぼLAだけで行うので責任も大きいですが、仲間たちと作り上げていく過程は本当に楽しいです。

学びのSTEP

〈1年〉

法律の意味を理解するのは大変でしたが、ドラマで見ていた内容を勉強することができ、楽しかったです。「犯罪と法」の授業をきっかけに、刑事政策に興味を持つようになりました。

〈2年〉

法律の知識だけではなく、法律が社会に与える影響や効果について考える視点も身につきました。LAに参加することで人間関係が広がり、コミュニケーション力が上がりました。

〈3年～現在〉

安部先生のゼミに所属し、刑事政策について研究中。公務員試験の勉強も始めており、それと並行して勉強範囲が重なる行政書士試験にも挑戦したいと思っています。

〈将来の目標〉

地方公務員となって、
地元・神戸のために
尽力したい！

政治学科

4年 劉 真希さん

両親が中国人移民で、私は中国国籍の日本生まれ日本育ちです。日本の法は在住する外国人の権利を保障してくれている一方で、ある面では突き離れていると感じており、今後、社会の一員として生きていくためには法や政治を勉強する必要がありますと、法学部を志望しました。入学後は、自分の興味・関心から積極的にさまざまな授業やプログラムに参加してきました。現在、私が取り組みたいと考えているのが、移民や外国人労働者に関する人権保障について。グローバル化によって人の国際移動が活発になっている現代、これらの人々の人権問題は世界共通のテーマだと思います。3年の秋学期から「国際ボランティア」プログラムに参加し、5カ月間マレーシアの大学で職員として働く予定です。滞在中、同国での移民や外国人労働者の実態、多文化共生について、実地調査を独自に行いたいと考えており、そこで得た経験や知見を、帰国後のゼミ活動に落とし込み、研究としてまとめていきたいです。



「海外フィールドワーク」

3年の春休みにマレーシアを訪問しました。多民族・多宗教・多文化が交わるマレーシアの人々の生活にふれることができ、「共通の当たり前がないことが当たり前」という社会を、身をもって感じることができました。

学びのSTEP

〈1年〉

夏休みの2カ月間、「議員インターンシップ」に参加しました。生活の至るところに法や政治、行政が関わっていることを学び、政治参加の必要性を強く認識しました。

〈2年〉

特修コースに所属。副専攻プログラムも活用し、国連や外交、外国人参政権や国際移動に関して発生する人権問題など、自分の興味・関心のある授業を積極的に履修していました。

〈3年～現在〉

今一番興味を抱いているのが、移民や外国人労働者の人権問題です。現在は望月先生のゼミで、国際人権の保護と課題について国際法の観点から学びを深めたいと考えています。

〈将来の目標〉

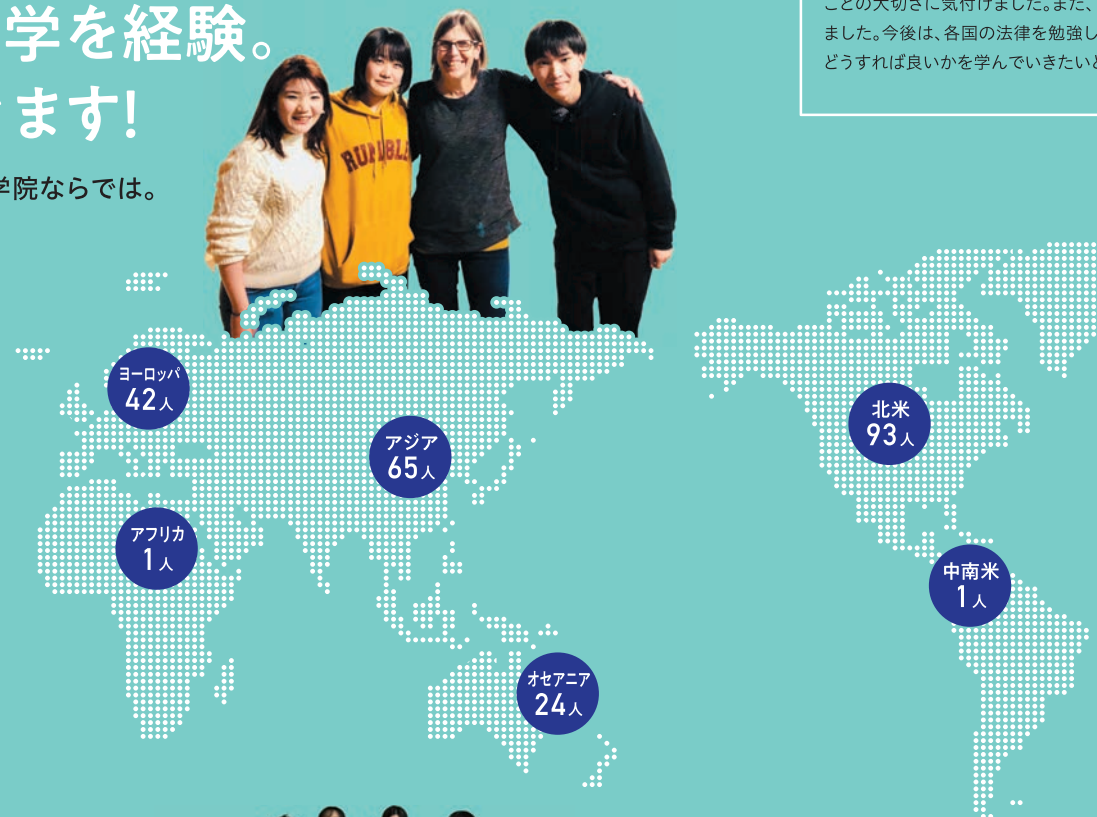
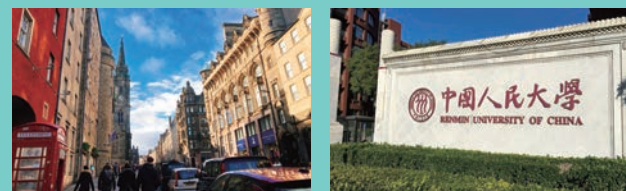
人の国際移動に関わる
国際機関に従事し、
人権保護に貢献したい！

国際交流プログラム

法学部生の3.8人に1人が留学を経験。 留学しても4年間で卒業できます！

多彩な留学プログラムは、国際性を育む教育に力を入れる関西学院ならではの。
法学部も、「法学・政治学」の学びをグローバルに活用できるよう
学部独自のプログラム・サポートを用意しています。

- 短期(約1カ月)**
 - 法学・政治学グローバル演習
 - エディンバラ大学春季法律英語研修
 - 外国語研修
- 中期(約4～5カ月)**
 - 中期留学
- 長期(半年～1年)**
 - 中国人民大学法学院交換留学プログラム
 - 交換留学 ●国際社会貢献活動
 - 国連ユースボランティア



〈法学・政治学グローバル演習〉STUDENT VOICE

経験したすべてが印象的で、価値観が一変しました。

私はインドのジャワハルラー・ネルー大学に行ったのですが、インド＝危険というイメージが強くあり、この機会を逃したら一生行かないかもしれないと思ってインドにしました。10日という短い期間でしたが、現地学生との交流、学会の見学、食事や衛生観念、死生観の違いまで、そのすべてが印象的でした。このプログラムに参加したおかげで、日本を外から客観視することの重要性、実際に現地へ行って体験することの大切さに気付けました。また、日々の勉強や生活に対する考え方も変わり、新たな目標もできました。今後は、各国の法律を勉強し問題点を分析しながら、日本が持つ課題解決のためにはどうすれば良いかを学んでいきたいと考えています。

法学学科3年 小仲 佐門さん



現地学生と市内観光へ出かけたときと、共同での研究発表後の1コマ。皆さんとてもフレンドリーで、滞在中は常に笑顔が絶えませんでした。



年間(2023年)
約**190**人の
法学部生が留学
留学先
21カ国

**奨学金制度で
留学費用をバックアップ**
海外で学びたいという学生の意欲を
応援するため、返済の必要がない
留学支援奨学金など多彩な制度が
用意されています。



法学部オリジナル留学プログラム

法学・政治学グローバル演習

世界の法律・政治・文化の実際を 肌で感じ、考える

1～4週間程度、海外の協定校を訪問し、現地学生・教員と交流しながら調査・研究を行う1年生から履修可能な短期海外研修プログラムです。渡航前の事前学習を通して参加メンバーとの関係を構築でき、かつ本学の担当教員も同伴するため、海外初心者も挑戦しやすいのが特徴です。

参加地域ごとにオリジナルプログラムが用意されており、自然公園でのボランティアや裁判所・孤児院などの施設見学、現地の学生との研究発表会など、それぞれ経験できる内容もさまざまです。自分の興味やスクールライフにあったプログラムに参加し、グローバルな視点で法律や政治、その背景にある思想や文化について学ぶことができます。

※参加者全員に短期留学奨学金が給付されます。

【2024年提携大学】

インド・ネルー大学、中国・中国人民大学、台湾・長栄大学、アメリカ・ベセル大学、タイ・パヤップ大学



インドの現地TA(ティーチング アシスタント)の皆さんと



アメリカの子どもたちに折り紙を教える



タイの子どもたちと



台湾の現地学生たちと街を散策

エディンバラ大学春季法律英語研修

イギリス屈指の名門大学で現地の法制度にふれる

日本での数回の事前研修を経て、春季休暇の3週間、協定校であるエディンバラ大学にてイギリス・スコットランドの法制度を中心に学びます。ポスターセッションやディスカッションを主体とした授業と、裁判所・議会見学などのフィールドワークにより、法律知識と実践的英語力を身につけます。滞在形式はホームステイで、ヨーロッパの生活・文化にふれながら学習できる環境というのも魅力の一つです。将来、法律知識をグローバルに活用したいと志す方におすすめのプログラムになります。

※参加者全員に短期留学奨学金が給付されます。



キャンパスとプレゼンテーション授業

中国人民大学法学院交換留学プログラム

世界中の学生とともに、2言語で中国の法学を学ぶ

首都・北京にある中国屈指の名門校であり、法学系学部は中国ナンバーワンとの評価を得ている中国人民大学法学院へ、1～2学期間の留学をするプログラムです。英語で授業を行う法学コース(LL.M.コース)が設置されており、世界各国からの留学生と一緒に中国の法制度や政治に関する専門知識を学びます。また、中国語による専門科目も履修することができます。

※参加者全員に交換留学奨学金、一部の学生に特別奨学金が給付されます。



中国語クラスのメンバーと

全学部共通留学プログラム

外国語研修

春季・夏季休暇を利用して、英語・中国語・朝鮮語・スペイン語などの言語を海外の協定校で3～6週間にわたり集中的に学習する短期語学研修です。

中期留学

1学期間(約4～5カ月)、海外の協定校で外国語を集中的に学ぶプログラムです。語学の習得のほか、現地での生活を通して国際感覚も身につけます。

交換留学

海外の大学で、自分の専門分野を現地の言葉で学ぶプログラムです。休学することなく協定校へ1～2学期間留学することができます。

国際社会貢献活動

開発途上国のNGOや教育機関などに約5カ月間派遣され、ボランティア活動に取り組みます。派遣先により、教育支援・環境保全・観光開発など多岐に渡る活動が展開されます。

国連ユースボランティア

国連ボランティア計画(UNV)との協定に基づき、主に開発途上国の国連諸機関に約5カ月間派遣され、プロジェクト運営に従事します。

就職実績 「法学の、その先」はひとつじゃない

社会全体の基盤となる「法律・政治」の知識、的確な解決策を導く論理的思考力といった、どの業界でも求められる能力が4年間の学びを通して構築されます。そのため、法学部の卒業生は法曹界や公務分野のみならず、さまざまな業界で活躍しています。



[卒業生メッセージ]

弁護士

最短で法曹の道へ進めたのは、挑戦できる、支えてくれる関学だからこそ

弁護士を志したのは、1年生の法職等説明会※1がきっかけです。関学出身の弁護士の方のお話を聞き、それまでの堅苦しく難しそうというイメージが一変。自分も「みんなの笑顔を守る仕事がしたい」という夢を抱きました。また、ちょうど私が入学した年に司法特修コース※2が設立されたことも大きかったです。新しい制度で未知のことも多く、迷いましたが挑戦を決意。少人数の演習や現役弁護士の指導といった手厚いサポートもあり、大学を3年で早期卒業し、ロースクールを経て、最短の5年で司法試験に合格することができました。現在、取り扱っている案件で一番多いのは労働事件です。働き方改革が注目されていますが、過労死やパワハラなどの労働問題が尽きることはありません。弁護士として、勇気を出して声を挙げた労働者をサポートし、働きやすい社会づくりに貢献していきたいと考えています。

【高校生の皆さんへのメッセージ】

思いもよぬ出会い、機会、そして前向きな気持ちと行動が自分の未来を大きく変えました。関学は「出会い」と「機会」にあふれた場所です。皆さんもたくさんの価値観にふれ、自分の可能性を広げてください！

※1 現在の法学部キャリアオリエンテーション ※2 現在の特修コース 法曹分野



相原 健吾さん
法律学科 2014年度卒業、
司法研究科 2016年度修了
勤務先：神戸合同法律事務所

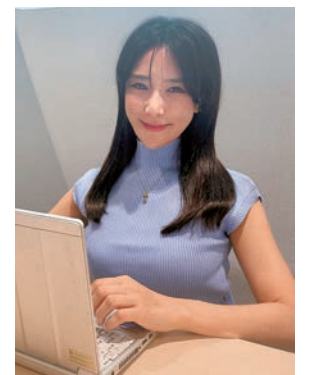
企業法務

私の原点であり、支えとなっているのが関学の精神と学びです

私がパナソニックの法務部門で働くことを選んだ理由は、「グローバルに幅広い分野」で「法律関係の仕事」をしてみたいと考えたからです。企業法務と聞くと、事務所ですと契約を読んでいるような印象を持たれるかもしれませんが、実際は社内の関係部門、取引先、弁護士事務所と日々コミュニケーションを取り、連携しながら仕事をしています。また、出張で国内外を飛び回ることも多く、グローバルかつアクティブに仕事をしています。ビジネスの場面では、六法や参考書に書いていないことがたくさん起こり、応用問題の連続です。その中でさまざまな法的分析を行いビジネスジャッジにつなげるのですが、そこで拠り所となっているのが大学時代に培った「法的思考」です。これからも、スクールモットーである“Mastery for Service”を胸に、関学と企業法務の仕事で学び培った専門性を生かし、会社と社会に貢献できるグローバル人材として成長し続けたいと思います。

【高校生の皆さんへのメッセージ】

関学には素晴らしい学習環境があり、そして法学部には多岐にわたる充実したカリキュラムが準備されています。私の在学時よりさらに充実した講座や研修機会があり、もう一度学生生活を送りたい!と思うほどですよ。



園部 友美さん
法律学科 2004年度卒業、
法学研究科 2006年度修了
勤務先：パナソニック株式会社

民間企業

自由な学びの環境で得られた、社会に生きる力と充実した大学生活

航空機はお客様のほかに、郵便など多くの貨物を載せて運航しています。私が所属する貨物郵便サービス部は、貨物の受付・引渡し、搭載計画などを行っており、日本の物流を空から支えるのが仕事です。法学部で、特に興味を持っていたのが国際情勢についてです。ゼミを中心に幅広く学び、今、世界で起きている問題に対する知識と自分で考える力を養いました。航空と物流という世の中の動きと密接に関わる仕事をするうえで、非常に役立っています。また、大学時代は学生団体でチャペルオルガニストとしての活動にも力を入れていました。ランパス記念礼拝堂でパイプオルガンを奏楽できたことは、私の大切な思い出です。卒論では、自分の好きな学びと趣味から「政治と音楽」をテーマにまとめました。そういった研究ができたのも、自由な気風にあふれた関学の法学部だからこそだと思います。

【高校生の皆さんへのメッセージ】

私はこれが学びたい!と明確な意志を持って法学部を選んだわけではありませんが、関学の好きなことを自由に学べる環境の中、今につながる幅広い知識や視野が身につけられました。皆さんも、ぜひ挑戦してください。



濱地 梓さん
政治学科 2018年度卒業
勤務先：ANA大阪空港株式会社

EVENT

卒業生による法学部キャリアオリエンテーション

目指す道を見つける第一歩

法学・政治学を学んだ先の将来はどのような進路が考えられるのでしょうか？また身につけた知識や考え方は、実際社会に出たときにどのように役立つのでしょうか？法学部では、卒業生による「法学部キャリアオリエンテーション」を毎年開催しており、法曹界から地方自治体、一般企業といった幅広い業界で活躍する先輩方の話を聞くことのできる機会を設けています。現場の声を聞くことで、法学部で学ぶ動機づけや将来を考えるきっかけとなります。





Law And Politics

関西学院大学 法学部

https://www.kwansei.ac.jp/s_law

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
TEL:0798-54-6203 FAX:0798-51-0951

[2024年6月発行]